

政策グランプリプレゼンテーション

# 農縁隊プロジェクト

～縁から始まるものづくりと体験～

G-Link

藤林陽向・野田虎之介・松崎りみ・岩田弓月葉

# G-Link とは



- 地域密着型ボランティア
  - メンバー
    - 同志社大学、同志社女子大学 計28名
  - 活動内容
    - 南部まちづくりセンター（ミライロ）で廃棄野菜を用いたカレーを提供するカフェを運営
    - 子供たちや大学生のためのイベント開催
    - ボランティアへの参加
- など...

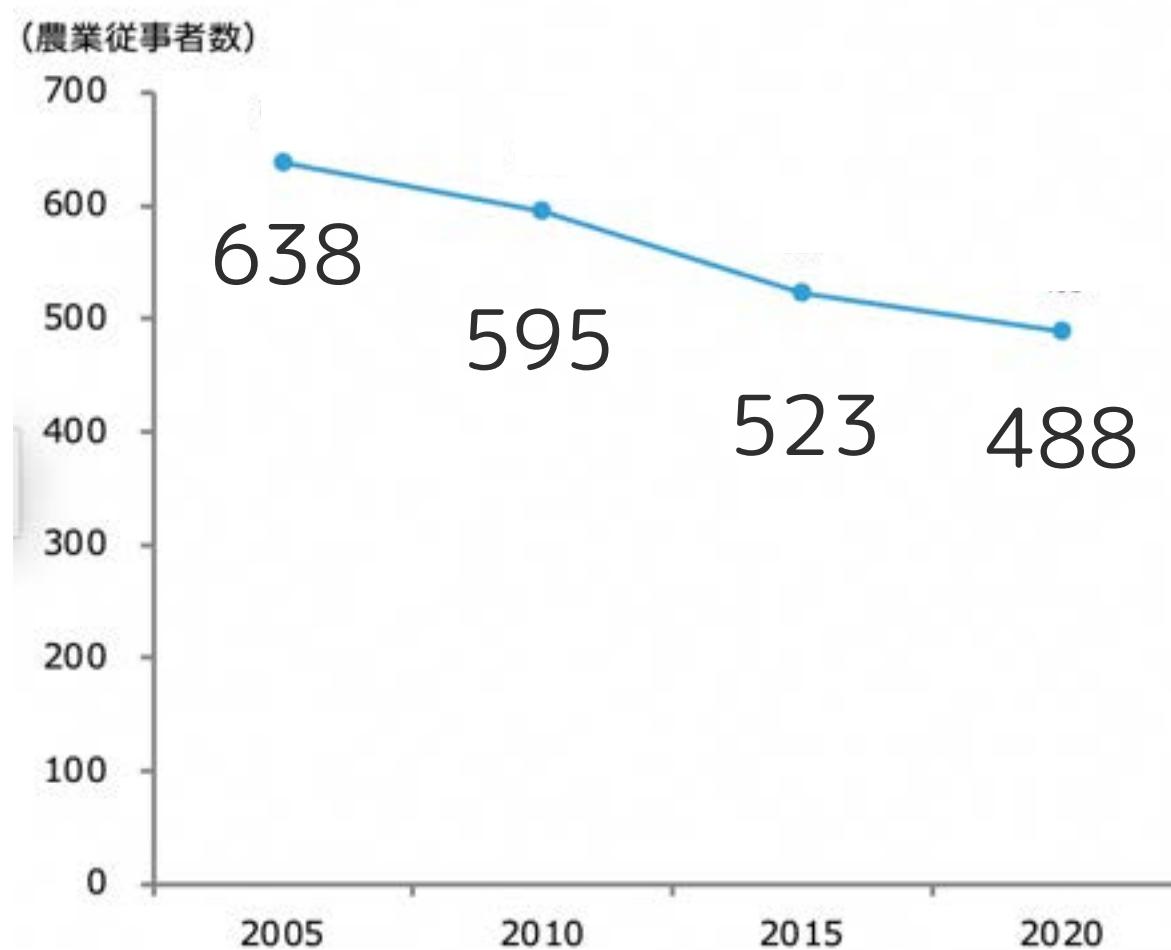


G-Linkの  
りんちゃん

# 京田辺市の農業の現状①

- 農業生産額は減少している
  - 農業従事者の数が減少
  - それに伴い、耕地面積・農業産出額も減少

基幹的農業従事者の推移



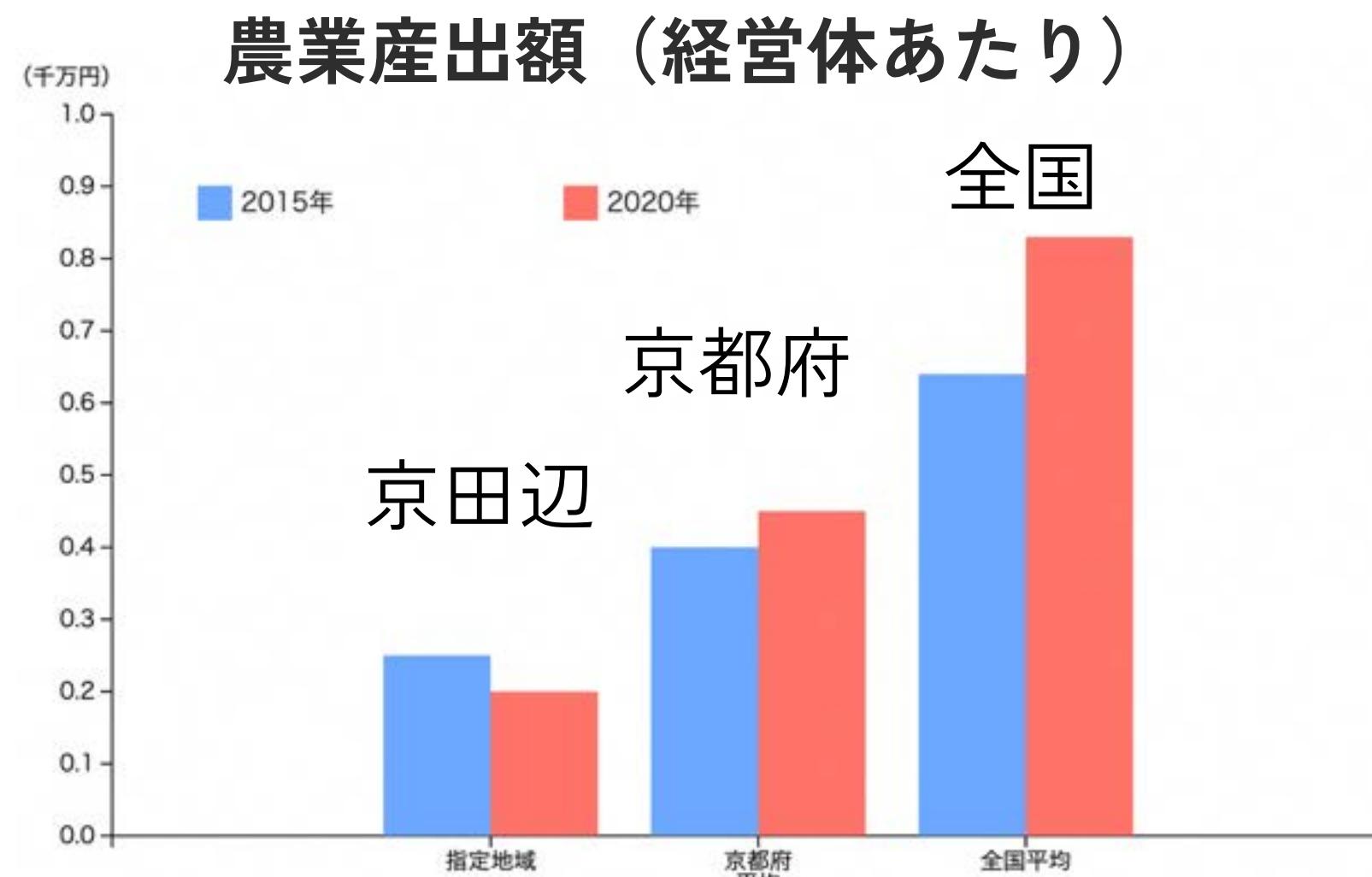
京田辺市の農業産出額（総計）



# 京田辺市の農業の現状②

- ・経営体あたりの出荷額が低い

- 京都府全体と比べて耕地面積にほとんど差はないが、出荷額が低くなっている
- 各農家が稼げていないことを示している



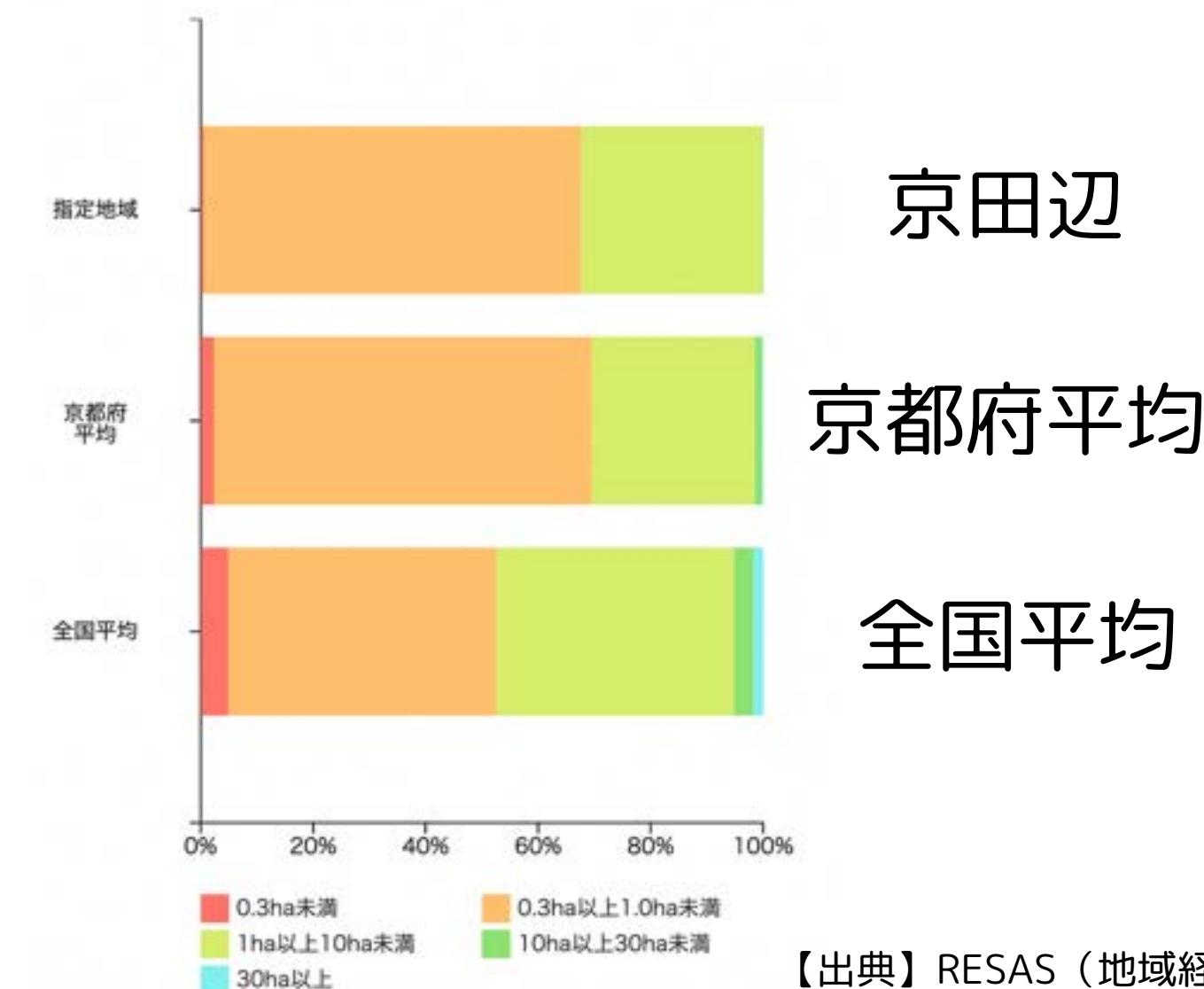
【出典】RESAS（地域経済分析システム）

全国単位：農林水産省「農業総産出額及び生産農業所得」

都道府県単位：農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」

市区町村単位：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

経営耕地面積規模別の経営体の割合(2022)

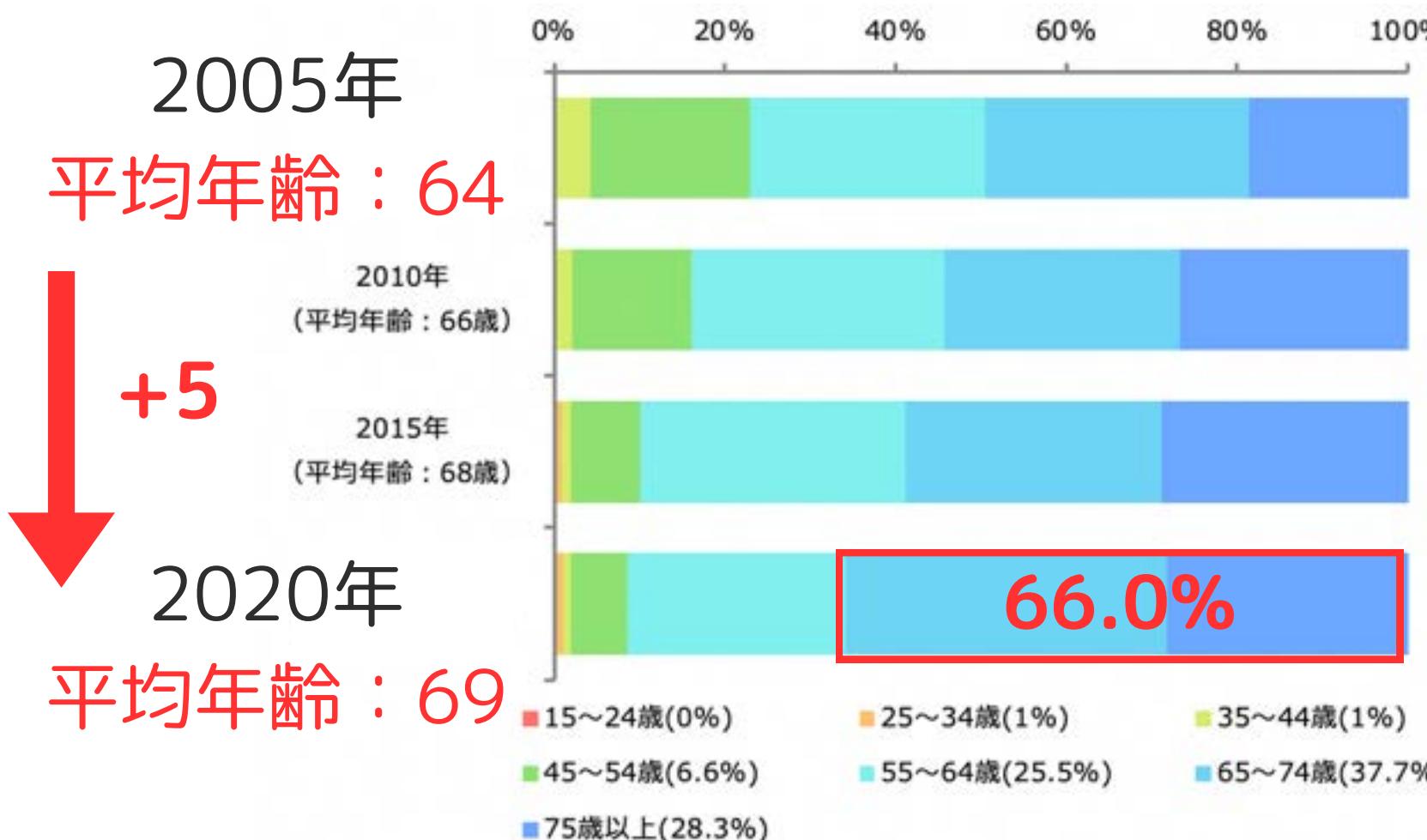


# なぜ生産性が低いのか？①

- 農業を担う人材の高齢化

- 農業人材の高齢化により、**売上向上**や**付加価値の付与**ができないと考察
- 若い人材が農業へ参画するための取り組みが必要

年齢別農業経営者の推移と平均年齢



- 平均年齢が**15年間で5歳**上昇
- 京田辺市の平均年齢は全国平均より2歳高い
- 65歳以上の経営者が**66.0%**

# なぜ生産性が低いのか？②

- 農家さんへのインタビューから見えてきた人手不足

- これまでの考察をもとに農家さんへお話を伺いに行ったところ、高齢化の課題のほかに、人手不足も課題となっていることがわかった

## 人手不足の理由①

人件費が限られ、  
給料が低い割に仕事内容がきついため、  
バイトやパートの希望者が少ない。

## 人手不足の理由②

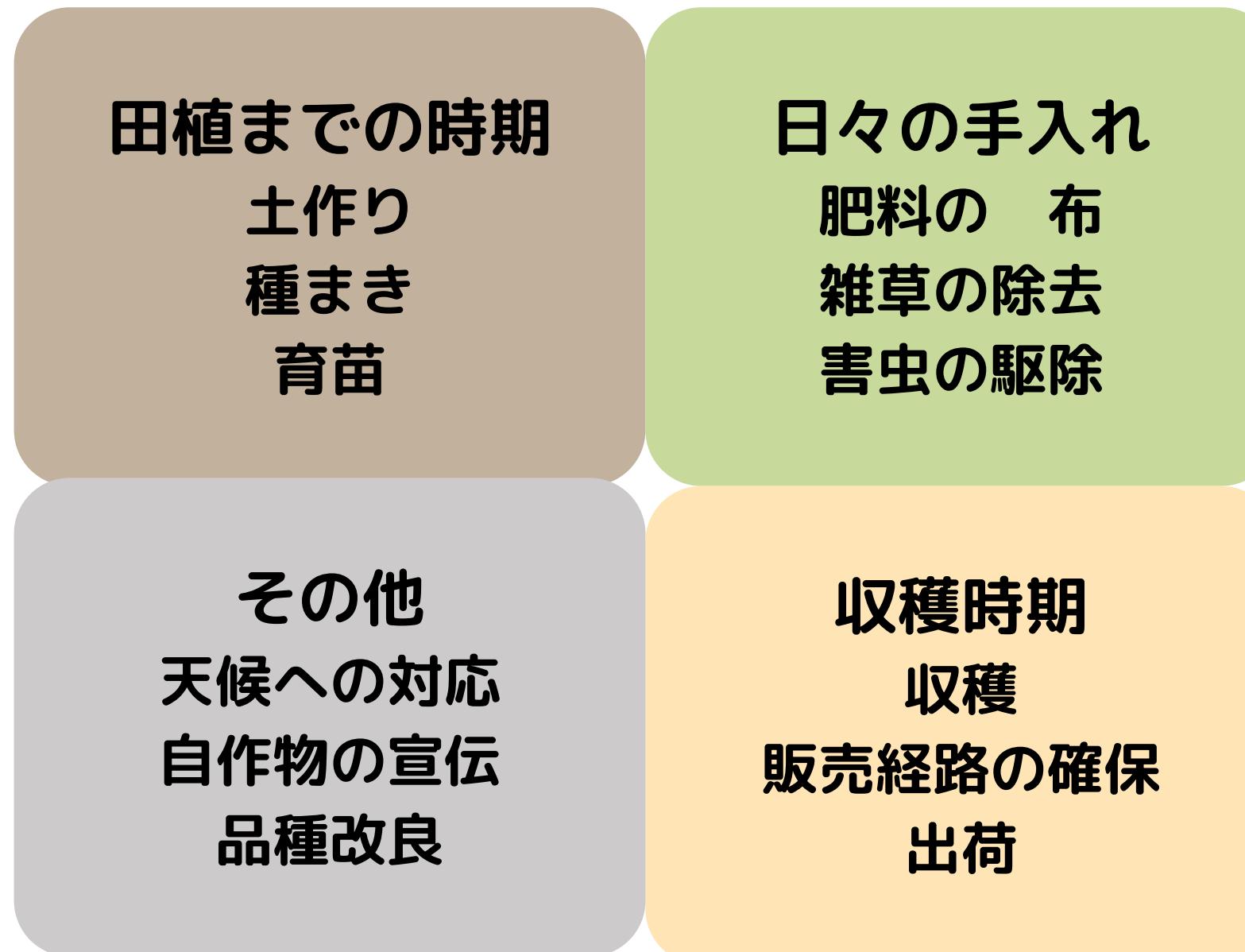
農業には農閑期と農繁期があり、  
通年での雇用が安定しない。



農家さん

# なぜ生産性が低いのか？②

- 農家さんへのインタビューから見えてきた人手不足



農業の業務は多岐にわたるが、人手不足のため、、、

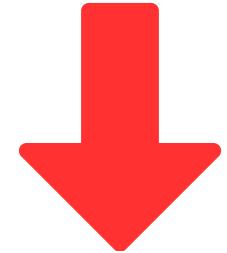
- 1日の作業量が制限される
- 日常業務で忙しく、付加価値の高い仕事に時間も体力も割けない
- 農地の拡大ができない

という問題がある

本当に人手が欲しい時は他の農家さんにお手伝いをお願いすることも！

# ここまでまとめ

- 京田辺市にはお茶を代表とする様々な特産品があるが、それらを育てる農家が減少しており、また高齢化が進んでいる
- 高齢化が、農業の売上高や付加価値額の低迷の要因になっている
- 人手不足により、農家が売上高や付加価値額を向上させるための業務に取り組む時間が十分に取れていない



以下の2つの取り組みが必要！！

- 若い人材や市民が京田辺の農業に関わるための取り組み
- 農家さんへ負担をかけずに人手不足を解決する取り組み

その取り組みとして提案するものが

のう えん たい

農縁隊

# 農縁隊とは

農作業を手伝いながら地元農家との交流を深めるチームのこと

## プロジェクトの概要



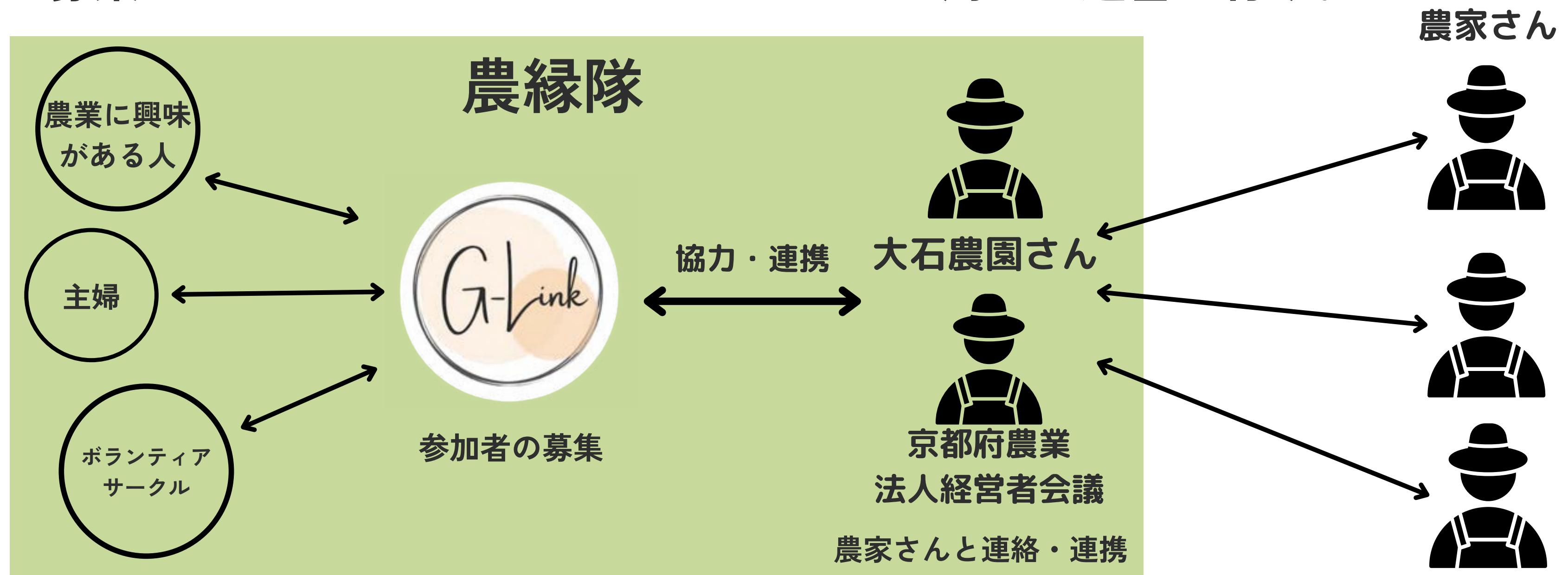
## 目的

- ・農家の**人手不足解消**
- ・京田辺の農業へのより**若い層の関係人口の増加**

# 取り組み内容

農家さんと協力して農縁隊の取り組みを実現していく。

主に、大石農園さんが農家さんと繋ぐ役割、G-Linkが農縁隊のメンバー募集・チャットツールプラットフォームを用いた運営を行う。



# 協力者紹介

## 大石さん

京田辺で春菊農家をやっていらっしゃる五京株式会社の代表。



今後、大石さんには、私たちが担当することが難しい農家さんたちとの連絡を担当していただく予定



# 具体的な作業内容・スケジュール

主に農家さんが人手が欲しい作業である収穫、運搬、袋詰めを行う。

## 当日までの流れ（農縁隊メンバー）

- 
- 農縁隊メンバー申請をして、農縁隊のプラットフォームに参加する
  - 1~2週間前  
農縁隊メンバー申請をして、農縁隊のプラットフォームに参加する
  - 1~2週間前  
農縁隊のプラットフォーム内で手伝い候補日を入力する
  - 約3日前  
農家の日程とマッチングし、手伝う日が決まる
  - 約3日前  
農家の日程とマッチングし、手伝う日が決まる
  - 当日  
2時間ほどのお手伝いに参加する！

# 農縁隊メンバーの募集

- 主に、SNSや紹介でメンバーの募集を行う

SNSや京田辺市の掲示板



ボランティアサークル



同志社のボランティアサークルARCOさんの声

代表：Mさん

農業を体験しながら、地元の人、農家さんと関われる素敵な企画だと思います！  
もし実現したら、私自身も、団体としても参加したいです。

# 初期費用（概算）

農縁隊プロジェクトを実施するにあたって、  
以下の費用が必要になると予想されます。

品目	単価	個数	合計
作業用手袋	250	6	1,500
収穫ハサミなど	3,300	6	19,800
作業用帽子	800	6	4,800
長靴	3,000	6	18,000

※初期段階では1日の最大  
稼働人数は6人程度と考える

合計：44,100円

# 保険

6

## ボランティア活動保険

(<https://www.fukushihoken.co.jp>)

ふくしの保険

検索



ボランティア活動保険に加入する  
一人あたり年間350円

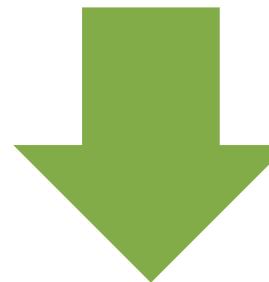


16

# 農縁隊プロジェクトの効果

## 課題（農家さんの場合）

- 高齢で農作業に体力がついていかない
- 日常業務で**時間と体力に余裕がない**



農縁隊に依頼

1日3時間(内指導に1時間), 月10回利用で

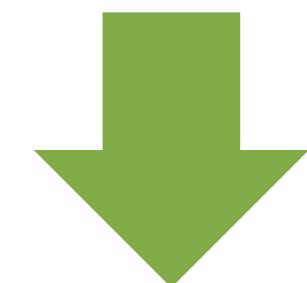
2(時間) × 2(人) × 10(時間)

月に**40時間**程度の作業を削減

省労力化・生産性向上

## 課題（農縁隊メンバーの場合）

- 地域の**農業を知りたい, 応援したい**
- ボランティア仲間が欲しい



農縁隊に参加

農家さんを応援しながら地元野菜がもらえる

地域への貢献ができる

農業に興味を持った仲間ができる

新しいコミュニティへの参加

# 農縁隊 ロードマップ

初期段階

未来

## 初期段階（0~1年目）

目標：試験的な活動を始める

具体的な行動：

- 大石農園やその知り合いの2~3軒の農家を訪問し、手伝いながらヒアリング。
- 募集の開始
- 初期メンバーで収穫や運搬作業を体験。農家と参加者の感想を収集し、システムの改善を行っていく

## 1~2年目

目標：仕組みの安定化

具体的な行動：

- 既存の農家さんのネットワークを活かし参加する農園を増やす
- 初期活動の成果を報告し、新規メンバーの獲得を目指す
- 大学のボランティア支援室などに協力を要請する

## 3年目以降

目標：地域に根付いたプロジェクトへ

具体的な行動：

- 50人規模のメンバーを維持し、要請のあるほぼ全ての農家の手伝いに行くことを目指す
- 季節ごとの活動計画をたて、年間を通して活動できるように制度を整えていく

# まとめ

## 課題

- ・ 農家さんの高齢化や人手不足
- ・ それによる**売上高や生産性の低迷**

## 提案

- ・ 農作業を手伝うチームである**農縁隊**を結成
- ・ 野菜をいただくと引き換えに農作業を行う

## 効果

- ・ 農家さんの**省労力化**
- ・ 京田辺の農業への**関係人口の増加**

最後に. . .

# G-Linkだからできること



## G-Linkの強み

参加者側、募集側両者ともコネクションがある  
年合計20回以上のイベント運営ノウハウがある  
大学や市との連携も視野に入れることができる

ご清聴ありがとうございました

